



**市民の暮らしと経済を守る
思いきった対策を**
上野 公悦(日本共産党議員団)



問／市長はこの間、新型コロナ禍において230億円を超える規模で市民の暮らし、市内事業者を守る対策を適宜講じてきた。しかし、そのほとんどが国庫支出金で措置され、実質市負担はわずかである。こうした中、年度末105億円ほどの基金残高が見込まれる。今が非常事態だ。基金を思い切つて活用すべきではないか。

答／コロナ禍や大雪災害に対応するために49億円余りの基金を取り崩して対応した。今後も必要な支援は適時行っていく。

問／住宅リフォーム促進事業は前期分として7、500万円の事業費が計上されたが、1、812件の申請に対し、制度を利用できたのはわずか615件で、後期分はわずか2、500万円の予算だ。補正予算を組んで対応すべきでは。

答／総事業費は19・8倍と見込まれ、後期の事業効果も踏まえると一定程度の事業効果は得られると見込んでいる。計画どおりに進めたい。

問／えちごトキめき鉄道と北越急行は深刻な経営状況に追い込まれている。地域に不可欠な交通インフラを守るために公的支援を行う考えは。

答／両社とも赤字決算で、内部留保資金を取り崩して経営を維持している。えちごトキめき鉄道はコロナ禍で利用者が大幅に減少し、このままでは資金が底をつく。県や沿線自治体と連携し、国に支援や財政措置の拡充を要望していく。



**村山市長の行財政改革の
取組の成果は**
栗田 英明(輝)



問／村山市長の市政運営について、行財政改革を最も高く評価しているが、財政の健全化と行政改革はイコールではないと考える。令和4年までの財政計画は単年度収支が赤字となっているが、計画の立て方としてそれでいいのか。

答／計画値には不確定要素を含めた推計値が多くあり、その積み重ねでできていく。収支の均衡を図るよう努めたが、裏付けができなかったため、赤字のままの計画となったものである。

問／行政改革は基礎自治体としてのあるべき姿を追求するものであると考えるが、村山市長は自身の考える行政改革ができたのか。

答／事務事業の見直しや公の施設の適正配置などに取り組んできた。基礎的な行政サービスの安定的な提供に努めてきた。

将来都市像「人と地域が輝く上越」の姿は

問／人が輝くために男女共同参画の視点が大事だが、地域が輝くためには同様に地域の個性や特色をいかしたまちづくりが必要と考える。地域自治区制度はそのための仕組みになっていないのではないか。

答／市政全般に男女共同参画の視点が含まれている。地域協議会は女性や若い方の割合が低いことや地域の団体との連携が少ないなどの課題を解決していかなくてはならない。



**登校できない生徒に
義務教育の確保を！**
中土井 かおる(みんこ)



問／心身の不調等、様々な理由で登校できない生徒のため、オンライン授業を導入する考えは。

答／今年度から、不登校児童生徒に対してオンライン授業の試みを行い、学習情報端末を家庭で利用できるような準備を進めている。ネットリテラシー教育も以前から行っている。



障害のある人が安心して避難するために

問／障害のある人が慣れない避難所でも安心して過ごせるような、障害特性に配慮した体制づくりが必要ではないか。また、地域のSOSが出せない障害者への対応はどうか。

答／福祉と防災部局が連携し、障害別の特徴などをまとめた防災マニュアル等の作成も検討する。また、SOSの出せない要配慮者の調査を民生委員の協力を得て対応を検討していく。

精神障害のある人の地域ケア体制の現状は？

問／精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、地域課題を関係者等と共有する「協議の場」を設けることが必須事業となったが、当市における現状はどうか。

答／昨年から自立支援協議会で、医療・福祉・行政が精神科病院からの地域移行支援の在り方を協議している。